

徹底解説！ 入試のしくみ

子どもをサポートするために行うべきことのひとつが、「入試のしくみを知る」ことです。大学入試は近年の教育改革の影響で変化しつつあります。どんな種類の入試があり、それらがいつ行われるのか、最新情報と併せて理解し、実力を最大限生かせる受験プランを子どもと一緒に考えてください。

子どもに合った入試を考えるために
今の入試を知りましょう

少子化の進展により、大学の志願者総数が入学定員総数を下回る「大学全入時代」を迎えつつあります。しかし、人気校の入試は高倍率となる傾向にあり、今後も同様の傾向が続くと見られています（30ページ）「2021年度入試はこうなる」。大学全入時代と言っても、どの大学にも簡単に入れるわけではありません。

また、近年の大学は学生を確保するために、さまざまな入試方式を設け、受験者数を増やそうとしています。その中には保護者世代の頃とは大きく異なる制度や、まったく新しい入試方式もあります。

どんな入試があり、それがいつ行われるのか、そのために必要なことは何か。まずは「今」の入試のしくみを理解しましょう。それが保護者にできる入試対策の第一歩です。ここから初めて、子どもに合った入試を考え、準備を進められるのです。

入試のしくみを知り、実力を最大限発揮できる受験プランを子どもとしっかり話し合ってください。そして、現役合格をめざしましょう。

大学入学 共通テスト センター試験に代わる試験 大多数の子どもが受験する

国公立・私立を問わず 多くの大学が利用する入試

2021年度から大学入試センター試験に代わり、大学入学共通テストが実施されます。1月中旬の土・日2日間に行われる実施される、全国共通の試験です。国公立大学の1次試験として用いられるほか、多くの私立大学も利用しています。ただし、どの教科・科目を合否判定に採用するかは大学によって異なるので、各大学ごとに必ず確認してください。

共通テストの前身であるセンター試験について、直近の2020年度は国公立大学・短期大学合わせて858大学が利用し、55万7698人が受験しました。試験は全て、選択肢の中から正解を選ぶマークシート方式です。6教科30科目の中から大学が指定した教科・科目を受験します。国公立大学は5または6教科7科目、私立大学は2、3教科が一般的です。

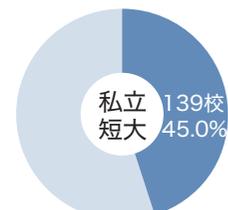
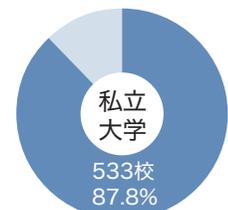
なおセンター試験では、出願後でも期日内であれば、受験科目を訂正することができました。共通テストでも同様の制度が実施される可能性があるため、できる限り学校の案内や最新情報をチェックしておきましょう。

2021年度 大学入学共通テスト出題教科配点一覧

教科	グループ	出題科目	科目選択の方法	試験時間(配点)
国語		『国語』		80分(200点)
地理 歴史		『世界史A』『世界史B』『日本史A』『日本史B』『地理A』『地理B』	10科目のうち最大2科目を選択する。同一名称を含む科目の組み合わせで2科目選択は不可。受験科目数は出願時に申請する。	1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)
公民		『現代社会』『倫理』『政治・経済』『倫理・政治・経済』		
数学	①	『数学Ⅰ』『数学Ⅰ・数学A』	2科目のうちから1科目を選択する。	70分(100点)
	②	『数学Ⅱ』『数学Ⅱ・数学B』『簿記・会計』『情報関係基礎』	4科目のうちから1科目を選択する。	60分(100点)
理科	①	『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』『地学基礎』	8科目から下記のいずれかの選択方法により選択する。 A:理科①から2科目 B:理科②から1科目 C:理科①から2科目と理科②から1科目 D:理科②から2科目 受験科目の選択方法は出願時に申請する。	【理科①】 2科目選択 60分(100点) 【理科②】 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分) (200点)
	②	『物理』『化学』『生物』『地学』		
外国語		『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』	5科目のうちから1科目を選択する。	【英語】 リーディング80分(100点) リスニング60分(うち解答時間30分)(100点) 【英語以外】 筆記80分(200点)

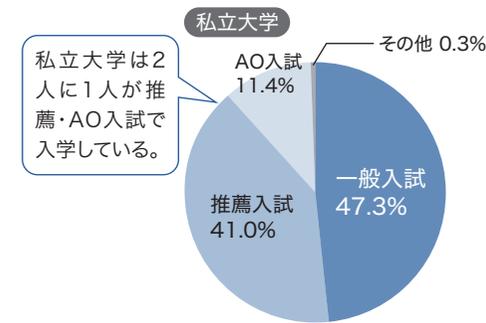
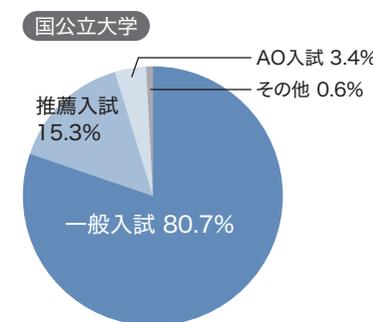
旧・センター試験利用の 私立大学・短期大学の 割合(2019年度)

センター試験利用入試を行う私立大学は年々増え、全私立大学の約9割に上る。



※大学入試センター「令和2年度大学入試センター試験利用大学・短期大学数について」などから作成。

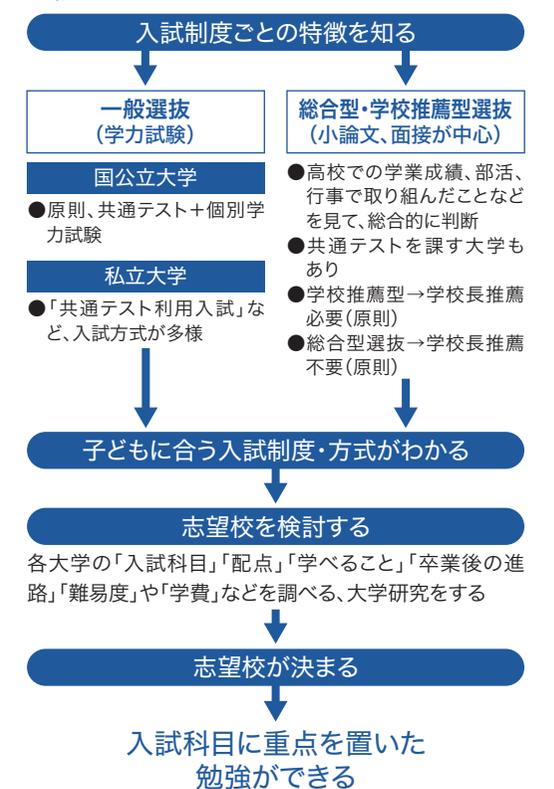
入試制度別入学者数の割合(2018年度)



私立大学は2人に1人が推薦・AO入試で入学している。

※文部科学省「平成30年度国公立大学入学者選抜実施状況」を基に作成。

入試のしくみを知るメリット



※大学入試センター「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」より抜粋。
※『』内記載のものは、2つの科目を統合したもの、または2つ以上の科目に共通する内容を盛り込んだ出題科目とする。
保護者版

国公立大学 個別試験

共通テストの受験が前提
前期日程を重視

共通テストが 1次試験として課される

一部の大学・学部を除き、国公立大学は共通テストと大学別に実施する個別試験（2次試験）の結果によって合格を判定します。共通テストの点数が一定以上でないとは個別試験を受けられない「2段階選抜」を実施する場合もあり、注意が必要です。

個別試験の出願は1月下旬から1週間程度。締め切り直前に慌てないよう、どの大学に出願するかについては事前にしっかり考えておきましょう。

3回まで受験可能だが 前期日程が一番の勝負どころ

多くの国公立大学は個別試験を前期・後期日程に分けて行う「分離分割方式」を採用しています。さらに、一部の公立大学は、前・後期日程の間に「中期日程」も実施しているため、最大3回の受験チャンスがあります。ただし、前期日程に合格して入学手続きを行うと、中・後期日程の受験資格は自動的に失われます。近年は中・後期日程を廃止する大学が増えているので、第1志望校は前期日程で受験するのがベストでしょう。

私立大学 一般選抜

さまざまな入試方式で
合格の機会を広げられる

多様な入試方式を理解し 子どもに合った受験を考える

私立大学の一般選抜は、文系学部は国語、外国語、選択教科（地歴・公民・数学）、理系学部は数学、理科、外国語の3教科が普通です。また、ほとんどの大学が「共通テスト（旧・センター試験）利用入試」や「全学部統一入試」など、さまざまな入試方式を設けています。例えば「共通テスト利用入試」は、共通テストの結果だけで合格が決まる入試。一度の受験で複数の大学に出願できる点特徴です。また、共通テストの実施後に出願期間が設けられている「後期」型の入試を実施している場合、共通テストの結果を見てから出願することもできます。

第1志望校はすべての方式を受験し、併願校は共通テスト利用入試のみにするなど、受験の仕方には多くの選択肢があります。子どもが有利に受験できるように、出願予定の大学がどのような入試を実施しているのかをよく調べ、最適な受験プランを考えてください。

地方在住者なら 学外試験で体力を温存できる

大学のキャンパス所在地から離れた

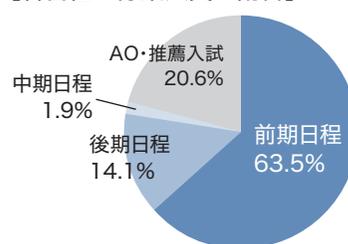
大学によって異なる 配点パターン

前期日程は全体の募集人員の約6割を占め、ほとんどの大学が学力試験を課します。一方、後期日程は小論文、面接、総合問題など、学力試験以外の方法で選抜するケースが主流です。

学力試験は記述式、論述式が多いのですが、出題傾向は大学によって異なります。また、特定の科目の配点が高く設定されている傾斜配点方式が多く見られ、その配点比率も大学によって大きく異なります。

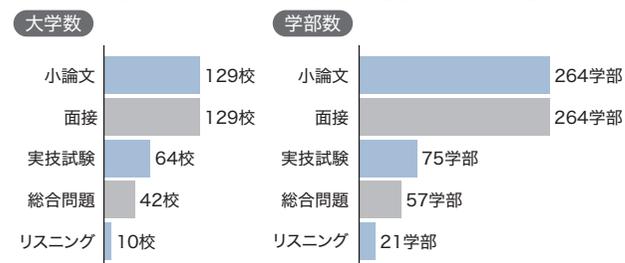
2020年度 国公立大学入学者選抜 個別試験の概況

[各日程の募集人員の割合]



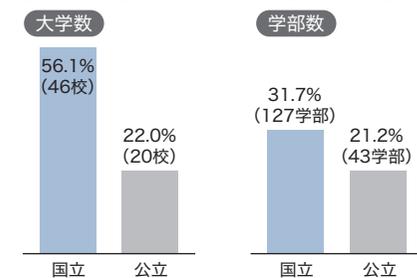
※小数点以下1位未満を四捨五入して算出した割合のため合計100%にならない場合があります。

[教科学力検査を課さない大学の試験内容(延べ数)]



※学部内の募集単位により選抜方法が異なる場合には、それぞれの箇所に計上しています。

[2段階選抜を実施した大学の割合]



※文部科学省「令和2年度国公立大学入学者選抜の概要」を基に作成。データは令和元年7月末現在で集計したものです。

場所で受験する「学外試験（地方入試）」も、多くの大学で実施されています。最寄りの試験会場で受験できるため、地方在住でもゆとりを持って受験できます。事前に試験会場の設置場所や試験日をよく調べておきましょう。特に私立大学を複数校受験する場合、試験が連続することもめずらしくありません。受験費用はもちろん、子どもの体力のことも考えて、積極的に学外試験を活用してください。

入試方式の種類(日本大学の例)

A個別方式	N全学統一方式
各学部が独自に試験を実施する。	同一の試験日、同一の問題で複数の学部(学科)を併願できる。
C共通テスト利用方式	CA共通テスト併用方式
共通テストの得点を利用して合格を判定する。	共通テストの得点と学部独自の試験の点数の合計で合格を判定する。

※2019年12月時点での入試情報です。

タイプ別 私立大学一般入試の入試方式

【タイプ1】同一大学・学部・学科を複数回受験できる	
方式別入試	同一学部・学科で、入試科目や配点などが異なる複数の入試方式で試験を行う。3教科型入試のほか、1、2教科型や、面接・小論文などで選抜する方式を設けるケースもある。試験日が異なれば併願も可能。
後期入試(3月入試)	同一学部・学科で、前期・後期というように募集人員を振り分け、試験を2回以上行う。後期試験は3月に行われる場合が多く、前期と後期で選抜方法や入試科目を変えるところが多い。
試験日自由選択制	一つの学部・学科で、複数の試験日を設定し、都合のよい日を選んで受験できる。試験日は違っても、入試科目は同じ大学がほとんど。また、試験日の数だけ併願を認めるところが大半で、受験チャンスが広がる。
全学部統一入試	学部ごとの試験日のほか、全学部の入試を同日に一齐に行う方式。受験科目の組み合わせ次第で複数学部を同時に受験できる、学部個別日程との併願によって受験チャンスが広がる、といったメリットがある。

【タイプ2】得意分野が生かせる	
得意科目重視型(傾斜配点方式)	得意科目の配点が高くなる。次のパターンがある。 ① 受験生が出願時に申請した科目の配点が高くなる。 ② 試験の結果、高得点だった科目の配点が高くなる。 ③ 受験した科目のうち高得点だったいくつかの科目で合格判定を行う。

【タイプ3】地元の近くで受験できる	
学外試験(地方入試)	大学のキャンパス所在地以外の会場で試験を行う方式。最寄りの試験会場でゆとりを持って受験できるだけでなく、交通費や宿泊費なども節約できる。また、学外試験と大学キャンパスで行う本学試験が別の日程で実施される場合、両日程受験できて、受験機会が増えるケースもある。

総合型選抜

大学が求める能力や「アドミッション・ポリシー」との合致を評価する

受験生の適性と意欲で 合否が決まる

「総合型選抜」(旧・AO入試)は、大学が求める学生像を示したアドミッション・ポリシーをもとに実施される入試。受験生の個性や適性、志望理由と意欲、大学との相性が総合的に評価されます。国公立・私立を問わず多くの大学に導入されており、2018年度は569大学(国立57大学、公立30大学、私立482大学)で実施されました。学校推薦型選抜と異なり、学校長の推薦は不要です。

入試内容や選抜方法が 大学によって大きく異なる

総合型選抜の入試内容は、主に書類審査、特技や資格の審査、面談・面接です。書類審査では自己アピールに加え、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などの活動履歴を記入するエントリーシートを提出することが多いです。

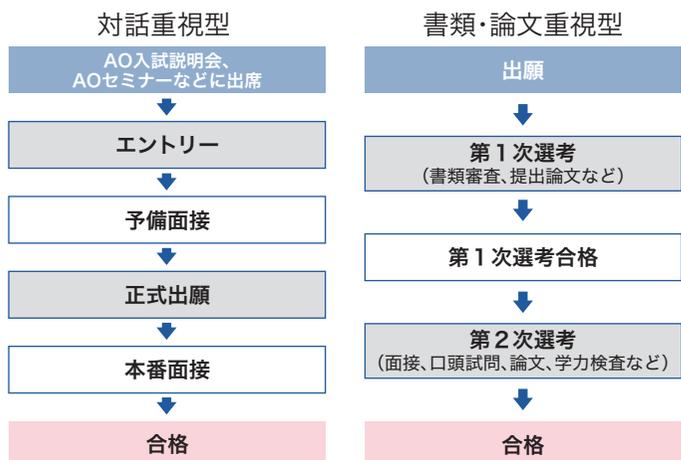
ただし、右記はあくまで一つの例で、実際の総合型選抜の内容は大学によって大きく異なります。例えば、書類審査ですが、難関大学の中には研究レポートの提出や、書類についてのプレ

ゼンテーションまで求める大学もあります。左の「主な旧・AO入試(総合型選抜)のパターン」を参考にしつつ、どのような入試があるのか、志望校を中心に調べてみてください。

総合型選抜の願書受付開始時期は「9月1日以降」です。しかし、総合型選抜の前身であるAO入試の時代には、出願前にエントリーを求めたり、複数回の面談を行ったりする大学が多く見られました。他の入試に比べ

て選考時期も合格発表も早いいため、入学金の工面にも注意が必要です。大学によってはオープンキャンパスでエントリーを受け付けたり、面接を実施したりするほか、オープンキャンパスの模擬授業への参加を出願条件とすることがあります。志望理由を掘り下げることもつながるので、受験するつもりであれば、オープンキャンパスに参加するようアドバイスしてあげましょう。

主な旧・AO入試(総合型選抜)のパターン



AO入試説明会やオープンキャンパスに参加して、エントリーを行う。面談を通して双方の理解を深め、受験生と大学側が合意したうえで、正式に出願するパターンが多い。

出願時に提出する論文やエッセーと書類で第1次審査を行う。この合格者に対して、論文や面接などの第2次審査を行い、最終的な合否が決定する。

※2021年度以降の入試については、大学の発表資料を必ずご確認ください。

学校推薦型 選抜

高校生活全般の
努力を評価

私立大学の約4割は 学校推薦型選抜での入学

受験方式として年々存在感を増している学校推薦型選抜(旧・推薦入試)。特に私立大学全体では、*入学者の4割が旧・推薦入試で入学しています。学校推薦型選抜は「指定校推薦」と「公募制推薦」の2種類に分けられます。保護者の世代によく知られているのは「指定校推薦」でしょう。夏休み明けに校内選考を行う高校が多いので、受験を希望するのであれば、三者面談などで担任の先生に相談しておきましょう。

「公募制推薦」は、学校長の推薦があり、大学が定めた条件を満たしていれば、誰でも出願することができます。公募制にも種類があり、「一般推薦」は高校の卒業成績に基準を設け、面接や小論文の試験結果を加味して選抜を行います。一方の「特別推薦」は、部活動や資格取得などの実績、経験などから受験生の個性や能力を評価します。医学部医学科や教育学部は、地元で活躍する人材を確保するために、地元や近隣出身者などを対象とする「地域枠」を設けているケースもあります。

学力だけでなく 日ごろの努力も評価する

学校推薦型選抜は主に書類審査で合否が決定されます。調査書に記載される評定平均値や学習成績概評(左図)、生徒会活動や課外活動の実績などが評価されます。高校の成績や部活動の実績に自信があるのであれば、合格のチャンスを増やすためにも、ぜひ学校推薦型選抜での受験を考えてみてください。ただし、国公立大学の学校推薦型選抜は学力試験とし

て共通テストも課することが多いです。日頃から勉強を欠かさず、共通テストでも実力を発揮する準備をしておくことが大切です。

学校推薦型選抜は他大学との併願が認められない「専願」条件があります。「専願」で合格すると入学辞退は認められません。国公立大学のほとんどの学校推薦型選抜は「専願」で実施され、私立大学の指定校推薦も原則「専願」です。ただし、私立大学の公募制推薦は併願が可能な場合もあります。

評定平均値と学習成績概評

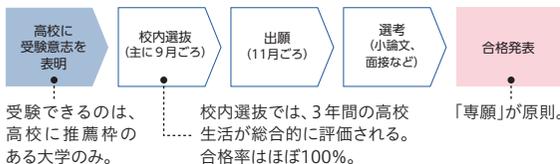
調査書に記載される学業成績の基準となるのが「評定平均値」と「学習成績概評」です。

全体の評定平均値* = $\frac{1年\sim 3年生1学期(または前期)までの全教科・科目の合計}{全科目数}$

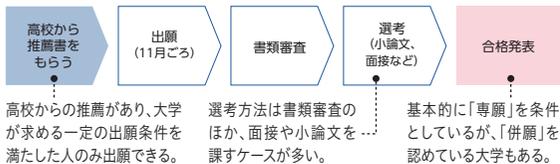
※全体の評定平均値：高校1・2年の学年末と3年1学期(または前期)の全教科・科目の合計を科目数で割ったもの。

学習成績概評	A	B	C	D	E
全体の評定平均値	5.0~4.3	4.2~3.5	3.4~2.7	2.6~1.9	1.8以下

指定校推薦



公募制推薦



*32ページ「入試制度別入学者数の割合」(2018年度)参照。
※2021年度以降の入試については、大学の発表資料を必ずご確認ください。

アドミッション・ポリシーの読み解き方

アドミッション・ポリシーとは、大学の入学者受け入れ方針のこと。子どもと大学の相性を考えるうえで、参考にすべき重要な資料です。どのように活用できるのか、詳しく見ていきましょう。

[アドミッション・ポリシーはこう読む!]

(例) 九州大学文学部 (九州大学ホームページより抜粋)

九州大学文学部が志願者に求める学生像

教育理念 (教育理念・目標、育成する人材像)

文学部の諸学問の根本は、私たちが用いる言葉を通じて、人間の本质とその営為を探究することにあります。ここで言葉は、単なる情報伝達的手段ではなく、人間の精神文化を培い、表現し、蓄積する知の宝庫を意味しています。言葉に自覚的かつ批判的に関わる中で、人間存在の奥深さへと眼差しを向け、文化・歴史・社会の多様性を認識し、新たな人文的知の創造に寄与していくことが、文学部の教育理念です。

教育プログラム

教育の目的

文学部は、各専門領域の研究者である教員と学生とが教育と研究を通して研鑽を行い、人文的知識・思考方法を習得する活気に満ちた学部です。教育の目的は、人文的教養と知性を身につけ、研究や仕事の場で活躍する優れた人材を養成し、社会に送り出すことにあります。

教育課程の特色

文学部は全体を一学科(人文学科)とし、哲学・歴史学・文学・人間科学の4コースの下に21の専門分野が置かれています。学生は一年間教養教育を受けた後、二年次からいずれかのコース・専門分野に所属し専門分野の講義・演習を受講するとともに文学部の全分野の多様な授業を履修することができます。そして最終的に、自らの関心に従って所属の専門分野からテーマを選び、四年間の勉学の集大成として自力で卒業論文をまとめなければなりません。

求める学生像 (求める能力、適性等)

文学部では、自ら問題を見出し、筋道を立てて思考し、精確に表現できる学生の育成を目指しています。そのためには、自らの足で歩き、目で見、手で触れ、他の人々と対話しつつ自らの考えを発展させていく姿勢が大切です。それゆえ、文学部で学ぼうとする者は、何よりも次の三つの資質を備えていることが望まれます。

1. 言葉への強い興味。とりわけ、文学作品や古典に対する感受性
2. 人間への飽きな好奇心と、「私とは何か?」という真摯な問いかけ
3. 文化・歴史・社会といった、世界の多様性への開かれた関心

入学者選抜の基本方針 (入学要件、選抜方式、選抜基準等)

文学部は高等学校の教育課程を尊重し、受験生の基本的知識、論理的思考力、表現能力を重視しています。

センター試験においては、幅広い基本的知識の習得を見るため、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語を課しています。

一般入試(前期日程)においては、より深い知識と論理的思考力を見るため、国語・数学・外国語・地理歴史を課し、マークシート方式のセンター試験を補充する形で記述式の問題を中心に出題しています。

一般入試(後期日程)においては、論理的思考力と表現能力を見るため、小論文を課しています。

どのような力を発展・向上させるのか

1. どのような学生を育成するのかを、教育理念・教育プログラムに分けて説明しています。特に教育プログラムでは、学生をどのように育てるのか、具体的な内容に触れています。この部分を読んだうえで、大学パンフを通して詳しい内容を調べたり、他学部書かれていることと見比べてみると、その学部の特徴がよくわかるはずですよ。

入学者に求める資質・能力は何か

2. 求める人物像について記されています。「筋道を立てて思考し」「他の人々と対話しつつ」「言葉への強い興味」など、わかりやすいキーワードがいくつかあるようです。こうしたキーワードが、子どもに当てはまるか考えてみましょう。

重きを置く能力とその評価のしかた

3. 各入試方式によって測る力と、その評価方法が記されています。出題の背景にある大学の考えを知ることにより、一歩踏み込んだ対策ができるでしょう。大学によっては入試方式ごとのアドミッション・ポリシーを用意していることもありますので、併せて確認してください。

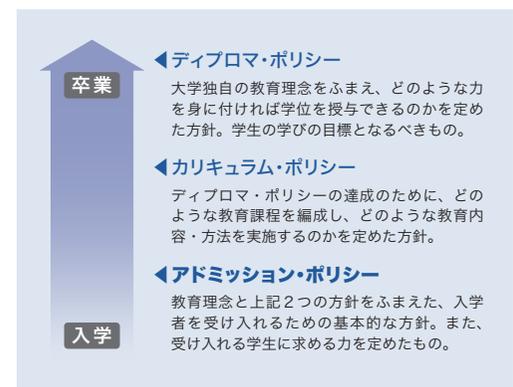
入学から卒業まで一貫した教育を行うための「方針」

大学改革の一環として、2017年度から全ての大学に対し、「アドミッション・ポリシー」(入学者受け入れの方針)、「カリキュラム・ポリシー」(教育課程編成・実施の方針)、「ディプロマ・ポリシー」(卒業認定・学位授与の方針)の策定と公開が義務付けられました。この3つの方針は、それぞれ大学が「どのような人を入学させ」「どのように育て」「どのような力を身に付けて卒業させるか」を示すものです。

大学はまず教育理念や建学の精神をもとにディプロマ・ポリシーを定め、その達成に必要な教育方針としてカリキュラム・ポリシーを定めます。この2つのポリシーをふまえ、どのような入学者を受け入れるか、アドミッション・ポリシーを定めます。こうして3つの方針が決まることによって、入り口から出口まで一貫した質の高い教育が行われると期待されています。

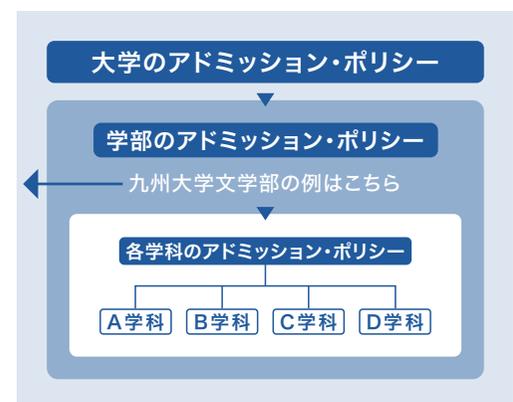
アドミッション・ポリシーを読めば入学させたい人物像がわかる

3つの方針は、受験生や保護者が大学を知るうえで非常に役立ちます。そ



の大学の教育の全体像が記されているため、志望校が決まっている場合も、迷っている場合も、一度は目を通しておくといでしょう。

なかでもアドミッション・ポリシーは必ず読んでおきましょう。アドミッション・ポリシーは、どんな人に入学者としてほしいかを示した、大学からのメッセージです。求める人物像、求める力のほか、どんな入試を行うのかも書かれているので、大学と子どもの相性を考えるよい判断材料になります。特に総合型選抜・学校推薦型選抜を受験する場合、志望理由が関係するので、必ず目を通しておきましょう。



多くの大学は、大学、学部、学科のアドミッション・ポリシーを定めており、求める人物像や選抜基準など順に細かく、具体的な内容が記される傾向にあります。まずは大学のアドミッション・ポリシーを読み、その大学の大きな校風を理解しましょう。次に、学部のアドミッション・ポリシーを読み、例えば経済学部と文学部では、求める人物像が大きく異なります。だからこそ、学部のアドミッション・ポリシーは端的かつ具体的に、求める人物像がまとめられています。ホームページや大学案内で探しやすいのもポイントです。ぜひ確認してください。